

(自然保護委員会活動記録)

ツバメのねぐら入り観察会

武田 壽夫 (自然保護委員)

◆日時：平成 30 年 8 月 6 日、16:00～19:30

◆場所：平城京跡歴史公園(大和西大寺)

◆参加者：石原順子(自然保護委)、斧田一陽(同)、黒田記代(山行委)、武田壽夫

河野直子(自然保護委)・中西未来(小5) 茜(小3) 若葉(小2)、

倉谷邦雄(本山寺山森林づくりの会)・宮澤千春・恭介(中一)・悠希(小5)・司冴(小3)

山 國(本山寺山森林づくりの会)

計 14 名

<記録編>

◆「ねぐら入り」とは？

平城京跡大極殿西側の「よし原」はツバメのねぐらの一つとしてbird-watcherの間でも有名な場所。夏の夕暮れ時には四方八方からツバメが群れを成して蟬集する、と言うことでこの観察会は河野委員の企画・案内による。本山寺山森林づくりの会からも参加。

◆待ち遠しい日暮れ時

16 時、近鉄西大寺駅集合。16:30 には公園に着いたが「お日さま! (^ ^) !」で日没には早過ぎ、よし原近くの佐紀池に餌を探すサギを見つけたり、空調の効いた復元事業情報館で避暑兼ての時間待ち、等々。まこと、夏の日には「暮れそで暮れない黄昏時は・・・(♪)」である(史料館や大極殿は月曜休館日)。それでも 18 時過ぎると 1 羽、2 羽と空高くツバメが飛び交うようになる。(♪)「人恋しくて(南沙織)」の歌詞

◆19 時過ぎると群舞開演

生駒山に陽が隠れ、空が赤く染まり出すと巣帰りするツバメの群れが四方八方から集まってくる。中空高く輪を描いては急角度に高度を下げ、よし原に飛び込んで行く。一群がよし原に隠れたと思うと次の群れが現れる。30 分足らずの時間だが説明なしで十分な迫力、ということで写真で一端を感じて頂きたい。もっとも「飛燕」の言葉通りで、ブレているのはご容赦を。

◆振り返って

「ツバメ達は平城京跡の周辺各地から集まって来るそうで、その数 5 万羽。日中はそれぞれのテリトリー(=山や森など)にいるようで、このねぐら入りは巣立ちを終えた子供も交え、秋に南の国、フィリピン方面へ集団で渡る準備をしている」ともいわれる。そう思って北方を見ると佐紀の盾列(たてなみ)古墳群、平城山(ならやま)、平城天皇陵に神功皇后陵と丘陵や大型古墳が続いている。木々の繁るそれらの森も昼の居場所なのだろう。将に、ツバメ達の、古代から変わらぬ営みに浸りきった一時間。二家族 6 人の子供達も参加し、老若揃って日没 30 分のダイナミックショーを満喫した夏の夕暮れ時、東の空には大接近中の火星。光度マイナス 2 等の赤い光に見送られて一同近鉄西大寺駅へ。

(記録編 終り)

<写真編>

【観察会参加者一大極殿前】



【佐紀池のサギ】



【そろそろツバメの”帰宅時間”】



【陽が落ちていよいよ帰宅ラッシュ】



【ラッシュは7時過ぎても続く】



【巣籠りが終わった夜の大極殿】

